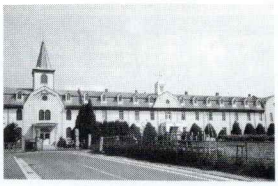
北辰 TOKYO

岐阜県立多治見北高等学校同窓会

東京支部会報　創刊第８号



平成６年10月１日

発行人　鈴木　満

大都会・東京に比べればテンポはゆっくり……とは言うものの、私達の生まれ育った故郷・東濃も徐々にその姿を変えつつあります。そこで今回は、北高在校の３年生にそれぞれの地区を代表してもらい、多治見、土岐、瑞浪、可児のいまをレポートしてもらうことにしました。果たして土岐川では今も魚釣りができるのでしょうか？

内津トンネルが１本増えました　多治見

須田　圭

多治見市も人口が10万人を越え、近頃では交通、文化の両面で大きな工事も行なわれ、近代的（？）な都市になりつつあるということを感じます。

交通の面では各道路の整備とともに、多治見市と春日井市を結ぶ内津トンネルを２つに増やすという大きな工事も行われました。この工事は、日本で初めての女性現場監督によるものでした。今まで交通渋滞で問題のあった対面通行のトンネルを２つに増やし、上りと下りに分けることによって通行をスムーズにしようという目的で行われましたが、工事は成功し、交通渋滞は解消されました。この成功が女性の新たな方面での活躍の機会を増やすということにつながれば、大変素晴らしい事だと思います。

文化の面では、土岐川沿いの市民センターが取り壊され、市民プラザという大きなビルが建てられるという工事がありました。外観はガラスを多く用い、茶黒灰系の落ちついた色のモダンな造りで、中には展示室や勉強部屋や会議室等があり、アートフェスタや、バザーなど色々と催されています。が、もうひとつ活発になり切れない理由はロケーションが悪いためもありますが、地下にある駐車場が狭いというところにあるとも聞いています。遠目からでも目立つ立派な建物が出来たわけですが、その立派さと近くの商店街とのアンバランスさは否めない事実のようです。

もうひとつ、これはこれから行われることですが、図書館の建て替えがあります。隣に建っている社会教育センターも一緒に取り壊して建て替える、という以外詳しい事はわかりませんが、市民プラザと同じ轍を踏まないように、駐車場は広く取られるようで期待してもいいのではないでしょうか。

図書館と言えば、我が北高の図書館を含む分館の内装を新しくするという工事が夏から始まりました。仮設図書館が校舎内に設けられ文庫の貸し出しなどは続けられるらしいのですが、私たち３年生にとって息抜きや勉強をする場所を失うということは悲しい事なので、なるべく早くに工事が終わることを願っています。

このように私たちの多治見市は、交通の面でも文化の面でも、便利に快適になりつつあるのですが、一方では陶器祭りの規模が縮小されたり、山が大々的に崩され、滝呂台に大規模な団地ができたりしています。昔からあったものの消失の危機や、自然の破壊が顕著になってきています。これは地域の都市化を行う時には必ずついてまわる問題で、いつも私達は便利さと引き換えに尊い自然を失なっているのだということを認識しなければならないと思います。が、自然を気づかう一方では多治見市の更なる発展を期待してしまっている矛盾した私です。

花火大会、今も続いてますよ　土岐

市原一宏

梅雨があけて、土岐市でも暑い暑い夏が続いています。この時期と言えば、毎年恒例のお祭りがあります。ふるさと祭りと言って駅前の広場から商店街までたくさんのお店が出てとてもにぎやかです。踊りには一般の人や婦人会の人達などが参加して通りのなかを行ったり来たりします。そして、お祭りといったら花火です。花火大会も毎年行われています。土岐市中にドドーンという音が聞こえそうなくらいの花火や、土岐川の河原では仕掛け花火が行われたりしてとてもきれいです。

次に、少しですが土岐市の町の変化についてふれようと思います。細かい所はよくわからないので、大まかに書きます。今から数年前に駅前にありました市民病院が壊されて、新たに土岐市総合病院として土岐口に移されました。この総合病院は、多くの設備を備え土岐市中の人達が利用しています。そして、市民病院の跡地には、陶器の町、土岐市らしく『セラトピア土岐』という建物が建てられました。ここでは、陶器の展示はもちろんのこと、毎月様々な行事が行われています。今では土岐市を代表する建物だと

昨年の総会での講演は大変に好評でした。画期的な外科手術としてますます注目されている『腹腔鏡下外科手術』について、8回生・加納宣康さんにもう一度わかりやすく解説してもらいます。

腹腔鏡下外科手術の現況と今後の動向

第8回生　加納宣康

（帝京大学医学部附属溝口病院外科　助教授）

腹腔鏡下外科手術という言葉はまだ皆様には馴染みのない言葉かと思います。従来の外科手術は、お腹を大きく開けて直視下に手術操作をしていたのに対し、腹腔に小さな孔をいくつか開けてそこから腹腔鏡を挿入してお腹の中を観察できるようにして、さらにその画像をCCD―カメラを通してテレビモニターに映し出し、これを見ながら手術を進めるのが腹腔鏡下外科手術です。

この腹腔鏡下外科手術のうちもっとも広く普及しているのが腹腔鏡下胆嚢摘出術です。これはわが国では1990年に帝京大学医学部附属溝口病院で本邦第１例目が施行され、以後急速に広まりました。腹腔鏡下外科手術の特徴を腹腔鏡下胆嚢摘出術を例にとって説明しましょう。

▶腹腔鏡下胆嚢摘出術の特徴

腹腔鏡下胆嚢摘出術が欧米に続き本邦でも急速に普及してきたのは、この手術には患者さんにとってそれだけ大きなメリットがあるからです。腹腔鏡下胆嚢摘出術の特徴を挙げてみましょう。

①従来の開腹下胆嚢摘出術に比し、手術侵襲が軽度である。
②術後の疼痛が著しく少ない。
③入院日数が短くてすみ、早期の職場復帰が可能。
④筋肉を切離しないため早くから運動が可能。
⑤手術創がきわめて小さくすみ美容上の利点がある。
⑥術後の癒着性腸閉塞の危険が少ない。
⑦腹壁ヘルニアの発生する確率が低い。
⑧入院期間が短縮されるため医療費が低額になる。

このように多くの長所があるからこそ、患者さんのニーズに応えるため急速な普及をみ、現在では内科医および開業医から、「腹腔鏡下胆嚢摘出術ができない病院へ患者さんを紹介するとあとから患者さんに恨まれる。」と言われるほどなのであります。従来の開腹下胆嚢摘出術では術後10日から２週間くらい入院していた患者さんが多いのですが、腹腔鏡下胆嚢摘出術では翌日から身の回りのことが自分ででき、３～７日で退院しています。医療費の高い欧米ではほとんどの患者さんが翌日には退院します。

しかしこの手術には利点ばかりではなく、いくつかの問題点もあります。まずこの手術を施行できるようにするためには、その施設はこの手術に必要な器具類を用意しなくてはならず、そのための新たな設備投資を要します。またその施設の医師も、これまで経験のない腹腔鏡下手術を施行するためにはある程度の訓練を要します。この手術を導入してもまだ十分な経験を積んでいない段階では手術時間も余計にかかります。さらには腹腔内の様子をモニターテレビ画面で見ながら、腹壁の小さな孔を通じて挿入された長い柄の器具を使って遠隔操作で手術を進めるため、これまでの開腹術にはない合併症も起こりえます。

▶本法の適応拡大と注意事項

私たちはこの手術を始めた当初は、胆嚢摘出術の適応のある患者さんでも、難しいと思われる症例は避けて腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行していました。しかし経験を積むに従い、その適応が拡大され、現在では初期には非適応とされた総胆管結石合併例や胃切除術の既往のある例にも積極的に施行しています。現在では胆嚢摘出術の適応のある患者さんの98％以上を腹腔鏡下胆嚢摘出術で治療しています。しかし経験を積んだ現段階でも、手術を腹腔鏡下に施行することに固執し過ぎて患者さんに危険が及ぶことは厳に避けるべきで、必要ならば手術の途中で従来の開腹術に移行することを躊躇してはいけないといつも自分に言い聞かせています。目的は腹腔鏡下に手術をやり遂げることではなくて、安全に確実に患者さんの治療（この場合は胆嚢を摘出すること）をすることであります。患者さん方にもこの手術の特徴を長所および短所を含めてよく理解していただいたうえで、手術をお受けいただくことが重要です。患者さんにとって術後が楽だからといって手術が簡単になったわけではありません。

▶その他の内視鏡下手術

以上述べたような新しい手術手技を腹部外科で応用すれば腹腔鏡下手術といわれますが、これが胸の手術に応用される場合は胸腔鏡下手術といわれます。両者を併せて内視鏡下手術といいます。現在では、胆嚢摘出術のみならず、鼠径ヘルニア修復術および肺部分切除術が今年の４月から健康保険の適応となり、先進的な施設ではすでに日常診療の中に取り入れられています。私たちはすでに「腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術」(診断と治療社)という本を著しその術式の普及に努めています。このほか私たちのところでは、まだ保険適応はありませんが、胃癌や大腸癌に対する胃切除術および大腸切除術、脾臓摘出術、副腎摘出術、虫垂切除術など多くの手術にこの手技を応用しています。今後ますます内視鏡下手術が発展し多くの分野で応用されていくと思われますが、どんな手術でも可能というわけではなく、その限界を謙虚に意識すると同時に、さらなる発展をめざして研鑽を積むことが私たち外科医に与えられた使命であると考えております。

▶おわりに

昨年は母校多治見北高東京支部総会で「腹腔鏡下外科手術」について講演する機会をお与えいただき、また今回その後の変化も踏まえて執筆する機会をいただきましたことを光栄に存じます。心より会員の皆様に御礼申し上げます。

言ってもいいくらいです。また、中央病院も壊され、そこには『ウェルフェア土岐』という福祉設備の整った建物が建てられました。土岐市でも、お年寄りが多くなってきているためか、よく利用されているようです。ここで、土岐市の人口のことにもふれておこうと思います。お年寄りの数が増えているのとは逆に、子供の数はどうかというとやはり減少しているようです。私の住んでいる地区（下石）でも、昔とは様変わりして、たくさんのクラスがあった小・中学校も今では驚くほど少なくなってしまいました。また町中で外国人の姿を見る機会も増えてきました。主にアジア系の人達ですが、製陶業などの仕事をしているようです。最後に、土岐市が日本でも注目されている事業を行なっていることをご存知でしょうか。多治見との境である西山という地区に現在、核融合研究所という施設が建設されています。テレビでも放送されたこともあり、大きな注目を集めています。この研究所が完成すると、各地から研究者達が集まってきて土岐市の様子も変わっていくかもしれません。この研究者のなかには、わが多治見北高校卒業生もいらっしゃいます。北高生がこうして活躍しておられると思うとうれしくなってきます。

以上、ほんのわずかの近況報告でしたが生まれ故郷の土岐市を思い出していただけたでしょうか。土岐市は今現在も変化している最中です。これからは、もっともっと大きな進んだ市となっていくことと思います。

ホタルの住める場所 土岐川

瑞浪

渡辺美緒

私が小学生だったころ、夏になるといつも土岐川で水遊びをした。近所の子供たちがみんな集まって、泳いだり、ゴムボートで川を下ったり、魚を捕まえたりした。白い大きな鳥が水面すれすれの所を飛び回り、空中で餌の取り合いをしていたこともあった。そして私は、貝の化石が採れる場所を知っていた。

私の家は瑞浪の中でも端っこの方で、田圃がいっぱいあるようなところだ。だから土岐川がきれいだった、というわけではなかった。瑞浪駅の近くの土岐川もそのころは、魚がたくさん釣れたらしく、釣りをする人が何人も川の中にいるのを、橋の上から見ることが出来た。私の祖父も、よく釣りをしていた。川の水は透き通っていて、体長三十センチ以上の大きな魚が、群れをなして川底を滑っていくのが黒く影になって見えた。沸き上がってくるような水の匂いと、土の匂いのする川だった。

私が中学にあがってからしばらくして、私の家の近くの山にはゴルフ場が出来た。建設中、川の水は絵の具を溶かしたように濁った。また、別の工事が川の中で行なわれて、化石の採れる場所は、コンクリートで固められてしまった。川には、魚がいなくなった。

駅の近くの川でも、なにかの工事が始まっていた。そのせいで、川を泳ぐ魚は、目が無かったり、背骨が曲がったりというものばかりになってしまったと、祖父が言っていた。そして当然、釣りなんて出来なくなった。

土岐川はもう駄目だと、私は思った。夏になっても誰も川に行かない。幼稚園くらいの子供たちは、ビニールのプールに水道の水を張ってもらって遊んでいる。川に興味を示す人は、いなくなってしまった。私もいつしか、土岐川に対して何の思いも抱かなくなっていた。

ところが最近、いくつかの発見があった。

まず、カワセミがいること。カワセミのいる川なら、きれいなはずだ。残念ながら、私がカワセミがいるのを知ったのは、カワセミがカスミ網に引っ掛かっているのを母が助けたから、だったのだが。

そして、まだ魚がいること。夕方、川面でぴつんぴつんとなにかが跳ねている。雨が降っているのかと思ったが、そうではない。小さな魚がたくさん、水面を泳いでいた。川面一面、魚で埋め尽くされていたのだ。

それからなんといっても、ホタルがいることだ。夏の夜、自転車で走っていると、カゴに青白い光がぱちっと引っ掛かる。たった一匹か二匹くらいだけれど、確かにいることに間違いない。

川がきれいになったのかどうかは解らない。でも、土岐川にまだホタルが住める。これは本当のことだ。私が気づかなかったのは、ただ私が川を見ようとしなかったからかもしれない。

これからは"ぼかし"の時代です

可児

光安綾子

可児市の現在の人口は約8万6千人。毎年着実に人口は増えている。市内には、まだたくさんの田があり、秋には道路をはさんで一面に黄金のじゅうたんが広がる。しかし、市の中心部には近年次々と大きなビルやマンション、店などが建てられ、土、日になるとたくさんの人々で市街地は混雑をみせる。

市内のスーパーに行ってまず気付くことは外国人が多いということだろう。可児工業団地の発展にともない、外国からの労働者の人数も増えている。そのため、市内の表示には日本語と英語とを並べてあるものがあったり、外国人

今・年・の・懇・親・会・は・11・月・26・日・(土)・で・す・!!

地元発・雑感 あれやこれや

第1回生　新井正三

昭和33年の開校以来、県立多治見北高等学校も今春の入学生で37期を迎えました。開校当初は、かなり広範囲の通学区域でしたが、学区の変更で可児市と、中央線沿線が主体となっているのが現状です。

東京地域に住まいされる諸兄姉にも、折に触れて帰郷の機会も多々お有りの事とて、取り上げての近況というまでもありませんが、地元に日暮しする者の雑感として、申し述べます。

東濃三市一町は、名古屋への足の便が良くなった事と、愛知県に較べて地価が安い事もあってか、名古屋市へ通勤する人の住宅団地が増し、それにつれ人口も増加して来ております。街の様子も、昔流に言う地元の人ではない人口が増すと共に変って来ております。駅を中心に拓かれる従前の様な商店街ではなく、国道や県道沿いに広い駐車場を有する大型店舗が増加して来て、都市近郊に見られる、郊外型の街へと変りつつあります。従来の地場産業は相変らずの低迷を続けておりますが、各業種共に、大企業志向と、家族で対応できる規模とに両極化して来ているように思われます。

朝夕に、駅や国道に見られる名古屋に向けての混雑は、関東の田園都市を思わせるものがあります。

人口の増加に伴ない、また世の中の変革に沿って、各自治体もそれぞれに文化、スポーツ、産業、福祉と銘うって様々な施設が大同小異の状態で完成を見ております。が、都会の企画会社の描く絵と、田舎の感性のミスマッチは如何ともしがたく、立派な箱が出来上っても、運用に関するソフトの面が追いつかずの状態で、文化不毛の地？の様相を呈しております。

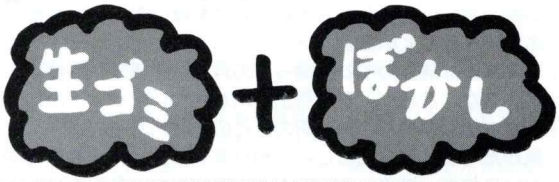
折々話題に上る学園都市構想やら、中央リニア新幹線の話も、バブル景気の去った今は、一層遠のいた感があります。東濃三市一町の合併により、陶都を目指す話も、各自治体共に、総論原則賛成を唱えながらも、本音とタテマエを上手に使い分けられるので、今一歩の進展を見ておりません。学校の数も多治見が公立3校私立1校、土岐市が公立3校、瑞浪市が公立1校、私立2校と増加して来てはおりますが、新しい団地が増加すると共に他県より移住の勢力に旧来の地域は押され気味のようです。特に人口10万を超した、多治見市内の中学では、ごく普通の成績の生徒は、多治見市内の高校（普通科）へは入学出来ずらい状況になっております。土岐市内には県立校が3校有りますが、土岐市の中学生の親御さんは、多治見の学校へ、というのが願望になっており、その事が多治見市内の子供が土岐市、瑞浪市へと向う（大変な浪費ですが）要因となっています。一方、北高では、生徒諸氏は勉学に、スポーツにと日々励んでおりますが、PTAの地区役員の選出に、生徒数に見合わない数が見受けられ、また学業面のみで評価を受けて来たためか、反社会的ではないながら、非社会的と申しますか、衆人の眉をひそめさせる様な学生が、多々存在する事は一考を要するかと思われます。地域に住まいする私共も心しなければと思っております。

との理解を深めるためのお話し会が毎月開かれていたり、と国際社会の一面を見せている。また、ボランティア活動に対する意識も深く、市民の間では点字や手話を学ぶセミナーや、身体に障害を持つ人との交流を深める会などが開かれている。

そして、人口増加にともなうゴミの増加に対して行っている市の対策として興味深いのが、〝ぼかし〟の使用である。〝ぼかし〟とは、市内の男性が考え出したもので、袋に入れた生ゴミにこれをふりかけて、しばらく放置しておくと自然に肥料ができるという、生ゴミの再利用を考えたものである。これは、日本でも初めての試みで、同じようにゴミ問題に頭を悩ませている日本各地から視察団が来たり、海外からも、この〝ぼかし〟に注目が集まっている。

しかし、交通機関においては、より一層の発達が望まれる。いまだに市内を走るバスは一日に数本しかなく、車の運転が出来ない人にとっては不都合なことが多い。また、学生の通学はほとんどが自転車で、私の友達の中にも、毎日10キロ以上の距離を自転車で走っている子がかなりいる。雨の日、雪の日などは交通事故が起こりやすく、事故防止のためにも、市民の快適な生活のためにも、もっとたくさんのバスを走らせることが必要であると思う。

最近は、次から次へと新しい建て物が建てられて、町の活性化というものを感じることが多い。しかし、ただむやみに自然を壊し、そこに人工物を作っていくのではなく、自然と人間、自然と人工物との調和を大切に、いつまでも緑がいっぱいの可児市であってほしいと思う。



今年も11月26日(土)に懇親会を行います！
懐しいあの日、あの頃に帰ってみませんか。

第5回東京支部同窓会 および懇親会のお知らせ

▶日時　平成6年11月26日(土)
　①総会　15：00〜15：30
　②フォーラム　15：40〜16：30
　③パーティー　16：40〜

▶場所　レストラン・アラスカ
　★千代田区一ツ橋1-1-1
　　パレスサイドビル9F
　★☎03(3216)2797・8

▶会費　一般7000円　学生4000円

レストランアラスカ
●交通　地下鉄東西線・竹橋駅下車（毎日新聞社側より）

フォーラムについて

今回のフォーラムは『私の外国ウオッチング』と題し、長く海外生活を体験された3名の方に、それぞれ肌で感じた外国観を語り合ってもらいます。まさにボーダーレスの今日、いつかお役に立てることがきっとあるはず！です。

●タイトル　『私の外国ウオッチング＝体験的外国観察考』

●パネリスト　愛知紘治（1回生）　丸井隆之（5回生）　滝野　功（5回生）

●テーマ　①私と外国の係り（仕事の内容など）②その国で実感したこと③体験したいい目、悪い目。いい思い、いやな思い。④外国で暮らすことのメリット、デメリット⑤これから外国へ、という方へのアドバイス⑥〝国際化〟という言葉をこんな風に思う。etc.

●皇居方面を望む見晴らしは絶景です

当日は100円玉をご用意下さい。
楽しいゲームを考えています！